

プレスリリース

2023年3月6日
国境なき医師団 (MSF)

バングラデシュ：ロヒンギャ難民への食糧削減は健康状態の悪化を招く

バングラデシュ南部コックスバザール県に住むロヒンギャ難民約 100 万人への食糧配給について、世界食糧計画 (WFP) は資金不足を理由に、配給量を 17%削減すると発表した。国境なき医師団 (MSF) は、削減により 1 人当たりが摂取できるエネルギー量が最低基準の 1 日 2100 キロカロリーを下回り、栄養失調のリスクが増大、人びとの健康に深刻な影響を与えると警鐘を鳴らしている。

食糧援助に依存

ミャンマーでの迫害と弾圧から逃れて来たイスラム系少数民族ロヒンギャが暮らすのは、コックスバザール県にある世界最大の難民キャンプ群。人びとはキャンプ内に閉じ込められ、正規の職に就くことを禁じられているため、既に 1 日の推奨摂取カロリーを下回るわずかな食糧しか補えず、ほぼ完全に食糧援助に頼っている。

摂取カロリーの不足は、栄養失調や貧血、免疫力の低下につながり、はしかやコレラなどの感染症の発生リスクも高まる。

既にひっ迫する医療サービス

MSF の医療施設で産前ケアを受ける妊婦の多くは、既に栄養失調に陥っている。2022 年、クトゥパロン＝バルカリ難民キャンプで MSF が運営する病院と診療所では、妊婦の 12%が急性栄養失調と診断され、30%が貧血と診断された。

栄養失調や貧血の状態にある母親は、出産時に合併症を引き起こすリスクが高く、新生児の健康状態が悪くなりやすいと言われている。現在の食糧配給量でも、同病院と診療所で生まれた赤ちゃんの 28%は低体重で、病気や栄養失調になる可能性が高くなっている。

また、キャンプにいる難民の多くは、心臓病、高血圧、2 型糖尿病などの慢性疾患に悩まされている。こうした非感染性疾患の患者にとっても、健康的な食事は健康維持に欠かせない。MSF は現在、4500 人以上の患者のケアに当たっているが、十分な食糧を得られなくなると、キャンプ内の医療サービスへの負担は高まるだろうとみている。

さらに、水はけの悪さによる水たまり、多数のあふれたトイレなど、衛生設備の不備により、感染性皮膚疾患である疥癬（かいせん）や、デング熱、コレラなどが多発。劣悪な生活環境に起因する疾患への対応に追われ、医療サービスは既にひっ迫している。

資金拠出の再確認を求める

MSF は、食糧配給の削減が、既にキャンプ内に広がっている絶望感をさらに高め、より良い生活と将来を求めて、人びとが危険な移動を試みる事態を危惧している。

バングラデシュで MSF の代表を務めるクラウディオ・ミリエッタは「ロヒンギヤの人びとに必要とされる限り、MSF は活動し続けることを約束します。しかし、コックスバザールに点在するキャンプでさらに多くの医療ニーズを引き受けることは MSF の能力の限界を超えています。資金減少を受けてコックスバザールで活動する援助団体の数は 80% 近くも減少しています。資金拠出機関や援助国には、ロヒンギヤ難民の優先順位を改めて引き上げ、資金拠出の約束を再確認することが求められているのです」と話す。

MSF は 1992 年からコックスバザール県の難民キャンプで医療を提供。2022 年、MSF は 75 万人以上の外来診療に当たり、2 万 2000 人以上の入院治療を行った。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平、山田瑞穂

携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press